

コラム
COLUMN

コロナ禍の先へ～挑戦者たち～

イラストレーター 水野 香菜さん

美大を卒業後、吹田市で歯科助手をしながらイラストレーターとして活動していた。毎夏、京都の古着屋の一角で個展を開催し、イラストや自らがデザインしたTシャツ、スマホケースなどを販売。祇園祭の時期と重なっていたこともあり、国内外の観光客が多く購入していった。

ある日、にっこり笑うウサギを描いた作品を見つめる男性がいた。声をかけると、「最近辛いことが重なって落ち込んでいた」という。「ウサちゃん、買って帰っていいですか」と問われ、「もちろんです」と答えると涙ぐんで礼を言い「これをきっかけにがんばりたい」と言った。曇っていた男性の表情がパッと明るくなり、目が輝きを取り戻したように見えたという。

昨夏、個展は6回目を迎えるはずだった。ところが、新型コロナウイルスの第2波が到来。政府による入国規制もあり、外国人観光客も見込めない。個展の開催はあきらめざるを得なかった。「お客さんとコミュニケーションがとれる個展は自分にとって必要な場所。シヨックは大きかった」と水野さんは振り返る。

イラストレーターによる収入は半分近くを占めたこともあったが、個展がなくなると徐々に減っていった。勤めていた歯科医院も感染を恐れた患者からのキャンセルもあり、収入は減少した。患者はマスクなしで



ハート型のキャンバスに白鳥を描いた作品を手にする水野さん。「Kana Mizuno (カナミズノ)」として活動する。

治療するため、感染リスクが高く、持病をもつ母親への感染も心配だった。このまま歯科助手を続けるか、イラストの仕事に絞るか。迷いが生まれた。

そんなとき、背中を押したのが個展で出会った男性の言葉だった。「私の絵が転機につながったのかな」。今度は自分が励まされた。

「今までは二足のわらじで保険をかけているような人生だった。でもコロナでその保険が壊れ未来は読めない。それなら私は自分の可能性にかけてみたい」。

歯科医院の退職を決意し、現在は、オーダーを中心に結婚式のウェルカムボードや、飲食店のロゴ、名刺の制作などを行っている。コロナを機に新たに仕事を始める人も多く、制作物の需要は高い。「90歳になっても現役のイラストレーターでいたい」。水野さんの挑戦は始まったばかりだ。

コラム
COLUMN

梅花から「令和」を込めて

努力を測る尺度

自身の努力を誰かに伝えようとする時、どのような例え話をしますか?『万葉集』巻十六には、次のような歌が残されています。

このころの我が恋力記し集め

功に申さば五位の冠

比来之 吾恋力 記集

功尔申者 五位万冠

(巻16・3858番歌)

「近頃の私の恋の努力を、(あれもした、これもしたと)書き集めて成果を報告申し上げるなら、五位の冠(に相当します)」と詠んでいます。「考課令」という法律には、一年毎の人事考課が義務づけられています。功績や過失、行動や能力を、本人に伝えることが求められていました。評価は九等。奈良の都に1万人の官人が働いていたら、五位以上は100人程度です。給与も待遇も、六位以下と大きく異なりました。とはいっても、現実には父親の官位が子の昇叙に影響を及ぼし、努力だけになれるのは稀なことでした。

同じ人が続けて詠んでいるのでしょうか。「近頃の私の恋の努力に見合う(評価を)くださらないのでしたら、しかるべきところに外かけて訴えましょう」

このころの我が恋力賜はずは

京兆に出でて訴へむ

頃者之 吾恋力 不給者

京兆尔 出而將訴

(巻16・3859番歌)

「京兆」は、司法・行政・警察などを掌った官庁を指します。もちろん、恋の努力を判断してくれる所など、あろうはずがありません。

六位以下の官人が、五位以上への憧れと、恋への努力を重ねて詠んでいるようです。思う人に贈ったら、「よく頑張ったわね」と褒めてもらえたのでしょうか?仕事も恋もそれなりに成果が上がらないと、厳しいような気もします。それとも、仕事帰りに男同士で飲んで、恋愛話に「がんばってる、オレ…」と、くだをまいたのでしょうか。いずれにせよ、仕事に恋に抱く思いを、五七五七七の短歌で表現したところが芸であり、共感を得て書き残されたのだらうと思います。

TEXT

梅花女子大学教授 市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士(文学)。著書に『大伴家持論 文学と氏族伝説』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数

俳句
/ HAIKU

3月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

〔優秀賞〕

ロゼットの土を離るる日永かな

箕面市 高橋 真美

ロゼットと言われれば、たんぼの葉を思い出してしまします。その葉が少し土から浮き上がった。そこを見つけたのです。春真っ盛り「日永」という季語を選んだことも成功しています。

〔入選〕

大阪の小さき月や猫の恋

吹田市 秋山 寛

大阪という地名がよく働いています。小さな月と猫の恋も似合います。

何色を落として描こう寒夕焼

吹田市 市場さと枝

冬の夕焼けを描いています。さて、何色から始めればよいのでしょうか。

飛び石のやうな舟置き春の海

豊中市 上杉千代子

春の海に浮かんでいる舟を言葉で射止めました。ゆったりと春が広がります。

菜の花の畑を歩く山頭火

豊中市 小倉 佳子

山頭火という俳人は、今いません。在りし日を忍んで菜の花に山頭火です。

春屋や平なる川海に入る

西宮市 宮部志津枝

春のお昼の長閑な時間が感じられます。「平なる」という言葉がすべてです。

〔佳作〕

もやもやの胸に女雛の伏目がち

池田市 山内瑠美子

深海の青見つけたり龍の玉

茨木市 山崎登代子

海底の貝の心地や春寝覚め

豊中市 小倉 佳子

風車窓辺の影に起こさるる

豊中市 佐々木愛子

ふるさとの軒みな低し豆の花

吹田市 秋山 寛

〔つぶやき評〕

俳句の言葉は、前もってあるものではありません。ものやことを見たり触れたりした時に飛び込んでくるものです。そのために、瞬時の反応が不可欠です。ためらっている時間はありませんので、ぱっと書き留めてください。

SELECT



1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

選者
山口 昭男
やまくち あきお

【俳句の応募方法】

氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかからご応募ください。

【宛先】

〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW 俳句係まで
FAX 06-6368-3505

【応募フォーム】

<https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160>



※締め切りは毎月25日必着 ※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

FM COCOLO × CITYLIFE / 音楽のCOCOLO Vol.23

FM COCOLOの人気DJが季節やテーマに合わせた音楽を紹介。

radiko なら、パソコン・スマートフォンでFM COCOLOが無料でクリアに聴ける!

FM COCOLO WHOLE EARTH STATION

今日魂を元気にする
お洒落をしよう!



ALBUM
WE ARE
—
ARTIST
ジョン・パティステ

長引く自粛生活で失いつつあるもの...それは、「お洒落をする心」でしょうか。マスクで顔を覆っていることをいい事に口紅から遠ざかり、この1年に買った服は、ちょっとそこまで行ける家着くらい。今日もただ楽な服を選んでます。そんな中、テレビ画面に映ったのは、喜楽を全身から滲ませ上機嫌な様子でピアノを奏でるミュージシャン、ジョン・パティステ! ヒット中の楽曲「I need you」のハッピーヴァイブに劣らず、見る人を楽しくさせる彼は「だって生きてるんだもの! これ以上のギフトはないよ!」とまたピアノを奏でる。そして、グッチのスーツを着馴染ませた彼の一言で目が覚めました「お洒落は魂を表すもの」。お洒落が離れたのは自粛で魂が弱ったからかもしれない。コロナ明けの未来にとっておかず、今日魂を元気にするお洒落をしよう! 「現在」は英語で「プレゼント」。どんな状況でも、今を贈り物として大切に生きようと思わせてくれるアルバム「WE ARE」日常に活力を与えてくれる一枚です。

ジョン・パティステ / 1986年生まれ。8歳の時よりパーカッションをはじめ、11歳でピアノに転向。10代の頃からインターネット上で音楽をリリースしはじめ、弱冠17歳でインディーズから「Times in New Orleans」を発表する。その後、ジュリアード音楽院でピアノの学士号と修士号を取得し、デビュー作『ハリウッド・アフリカズ』がいきなり2019年のグラミー賞でノミネートされ、トップ・アーティストとしての地位を確立。米フォーブス誌の名物企画「世界を変える30歳未満の30人」に選出された経験も持ち、彼のファンは米音楽界にも多い。

SELECT DJ

八木 早希
SAKI YAGI



1978年アメリカ・ロサンゼルスで生まれ、大阪阿倍野で育つ。父の仕事の都合で小学校4年生から3年間韓国ソウル在住。高校2年生の1年間アメリカ・シアトルへ留学。同志社大学文学部英文学科卒業後、毎日放送入社。2011年退社、フリーへ転身。日本テレビ「NEWS ZERO」キャスターを3年間務める。毎日放送アナウンサー、NEWS ZEROキャスターを経て、ニュースを伝える他、大勢の政治家、著名人、ハリウッド俳優らへインタビュー、国内外の取材多数。コミュニケーション等に関する講演活動も行う。二児の母。担当番組は「Billboard PREMIUM Plus」(金曜 PM 10:00-11:00)「Breeze on Sunday」(日曜 AM 9:00-10:00)